

新聞報道に基づく文化遺産防災に対する 社会的着目度に関する考察

小川 圭一¹・水谷 泰啓²・塚口 博司³

¹立命館大学准教授 理工学部都市システム工学科 (〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1)
E-mail: kogawa@se.ritsumei.ac.jp

²立命館大学大学院 理工学研究科創造理工学専攻 (〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1)
E-mail: rd007046@se.ritsumei.ac.jp

³立命館大学教授 理工学部都市システム工学科 (〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1)
E-mail: tsukaguc@se.ritsumei.ac.jp

歴史都市においては、文化遺産の存在が人々の日常生活にもかかわっており、また重要な観光資源ともなっている。このような文化遺産に対する防災を考えることは、歴史都市を維持してゆく上で重要であると考えられる。

しかしながら、防災計画の策定にあたっては限りある資源をさまざまなものの防災に向けていかなければならない。文化遺産防災を含めた防災計画に対する社会的コンセンサスを得るためには、防災全般の中における文化遺産防災の位置付けを明確にし、文化遺産防災の必要性を客観的、定量的に示していく必要があると考えられる。

文化遺産防災の必要性を客観的に示すための方法の1つとして、文化遺産の防災や被災に対する社会的な着目度を何らかの方法で計測し、防災全般、災害全般に対する着目度との比較をおこなうことが考えられる。そこで本研究では、文化遺産防災に対する社会的な着目度を計測する指標として、主要なマスメディア報道の1つである新聞報道を取り上げ、新聞報道における文化遺産防災の取り上げ方の特徴について把握する。

キーワード：社会的着目度，新聞報道，マスメディア報道，文化遺産防災